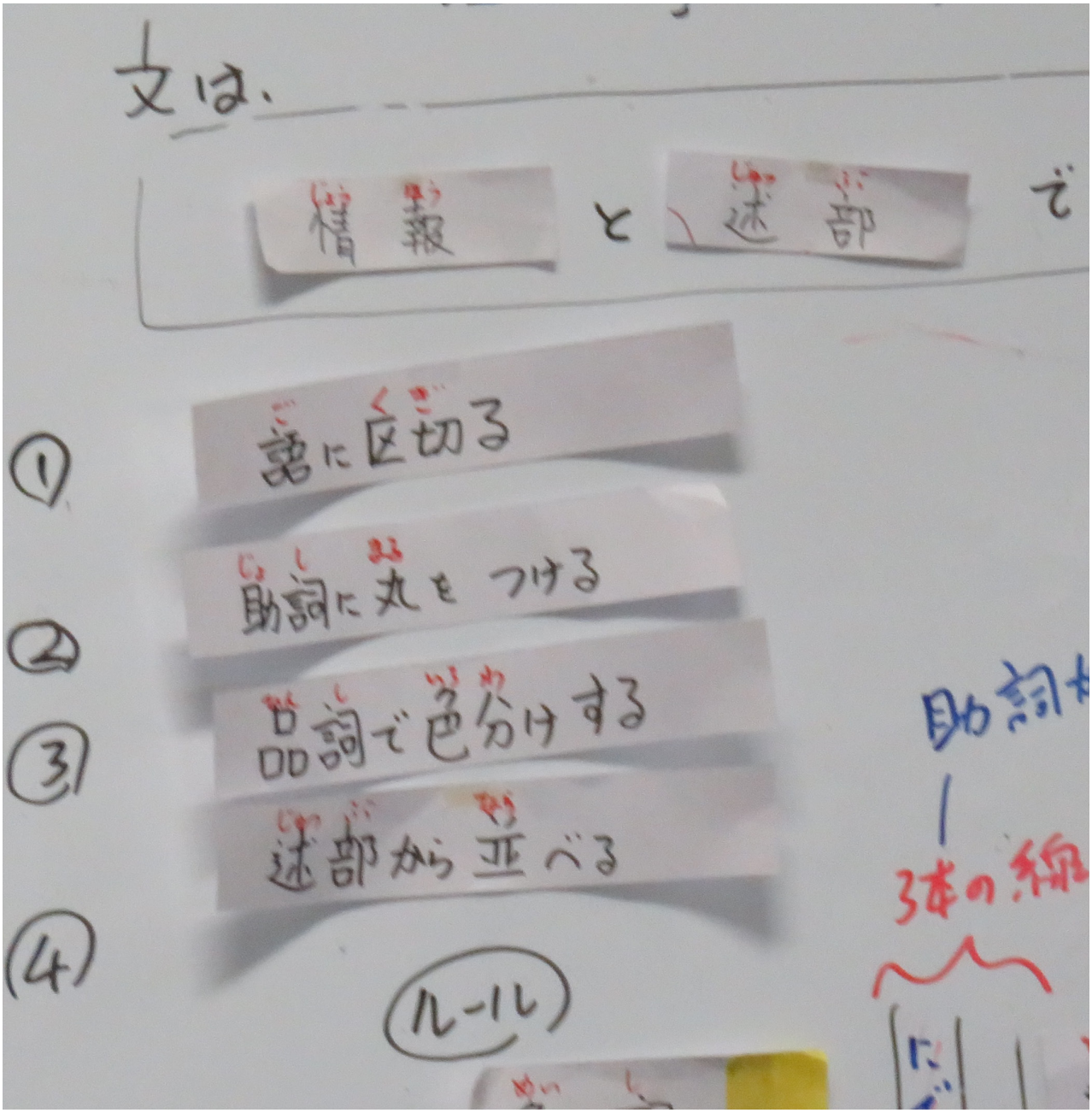
情報デザイン科**学科だより**
Information Design Department

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」令和４年度第６号 通巻２００号

IDDNewsletter 9

2022
September



特集

改めて「デザインとは何か」

今回は、「デザインとは何か」について、改めて考えてみます。情報デザイン科では、グラフィックデザインや DTP、Web ページ制作以外にも、様々な授業が行われています。領域に違いはあれど、デザインの核心の部分それぞれに共通の属性はありますし、そこを掴めるかどうかは、理解の深まりに大きく影響するものと考えます。日常の授業の様子を紹介しつつ、少し考察してみたいと思います。

特集

改めて「デザインとは何か」

今回は、「デザインとは何か」について、改めて考えてみます。情報デザイン科では、グラフィックデザインや DTP、Web ページ制作以外にも、様々な授業が行われています。領域に違いはあれど、デザインの核心の部分それぞれに共通の属性はありますし、そこを掴めるかどうかは、理解の深まりに大きく影響するものと考えます。日常の授業の様子を紹介しつつ、少し考察してみたいと思います。

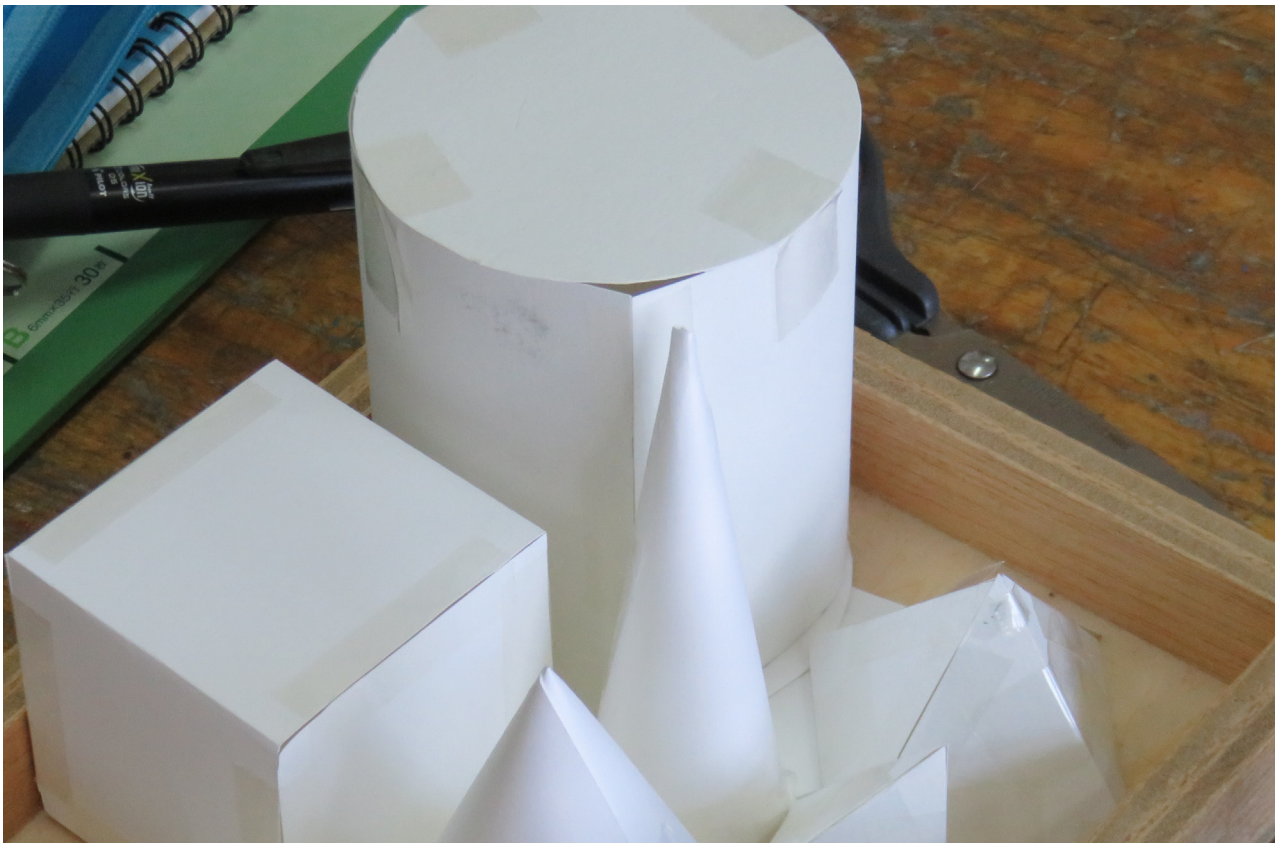
今回は「デザインとは何か」について、改めて考えてみます。情報デザイン科では、グラフィックデザインや DTP、Web ページ制作以外にも、様々な授業が行われています。領域に違いはあれど、デザインの核心の部分それぞれに共通の属性はありますし、そこを掴めるかどうかは、理解の深まりに大きく影響するものと考えます。日常の授業の様子を紹介しつつ、少し考察してみたいと思います。

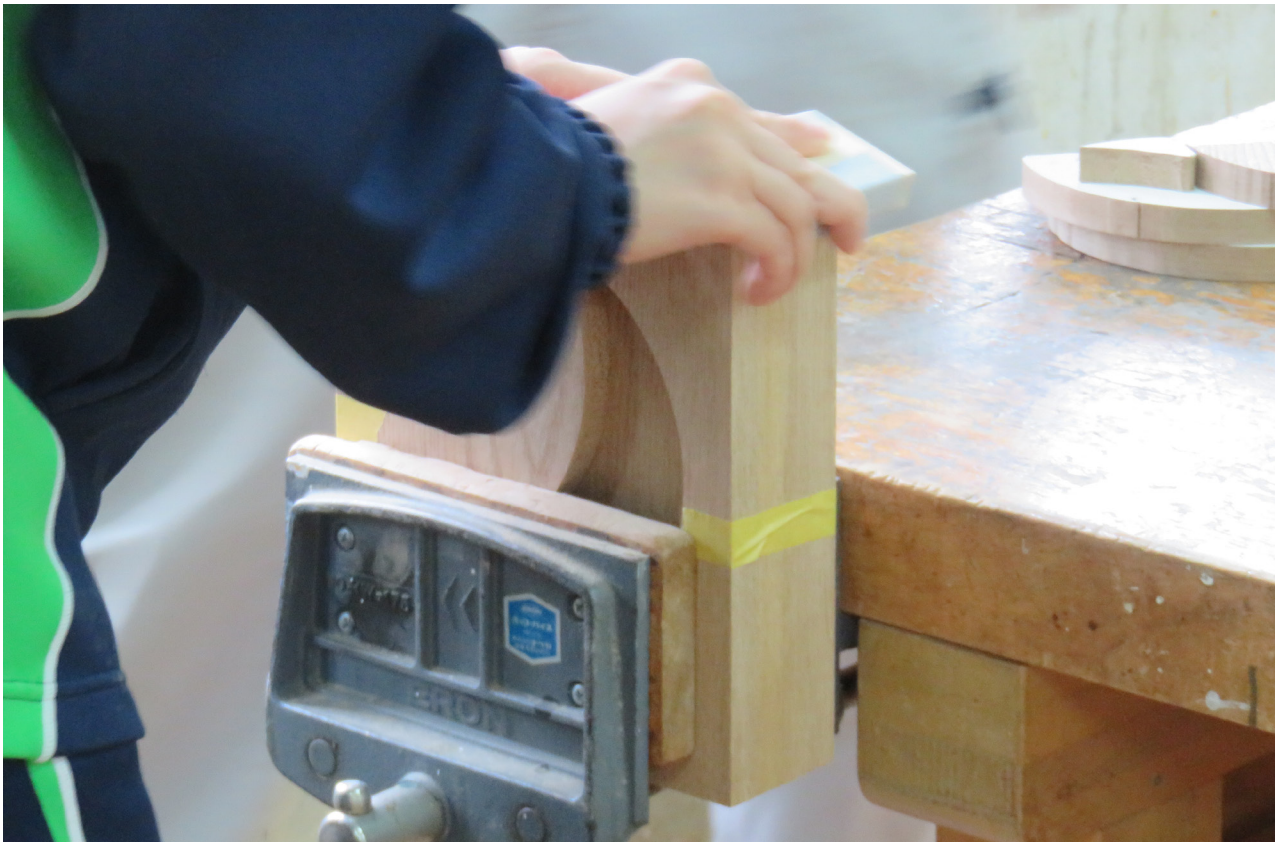
デザインとは、設計したことに基づいて、イメージや思考自体を形にしていくこと、というイメージが強いと思われます。しかし、デザインには、何かを目に見える形にする行為だけではなく、頭の中の働きそのものも意味として含まれています。

例えば、情報デザイン科の科目である「インテリアエレメント」や「グラフィックデザイン」は、授業内容は大きくことなりますが、実際に形にしていく前に意味の構造を組み立て、情報が整理された状態で、パラメータを構造に組み込み、実際の形にしていくというプロセスが重要です。その上で、使用する機材を準備したり、設計や工程順序の構成を練っていく必要があります。

設計・計画の段階で多面的、多角的に考察していくためには、「構造」、「設計」、「作業」という過程を通して、全体のフレームを見渡せなければなりません。実際には、物理的にイメージどおりの形にならない難しさに直面してしまうことも多いのですが、それがデザイン活動の醍醐味だったりもします。それは、ある意味、「創造の苦しみ」でもあるのですが、学生の中には、自分のイメージがそのまま、すんなりと形にできると思い込んでいる場合も少なくありません。

目に見えている範囲だけで物事を判断することなく、デザインの法則性や様々なメタ情報を整理し、要素間の因果関係やサブクラスへの拡張といった関係を見いだした上で、作品





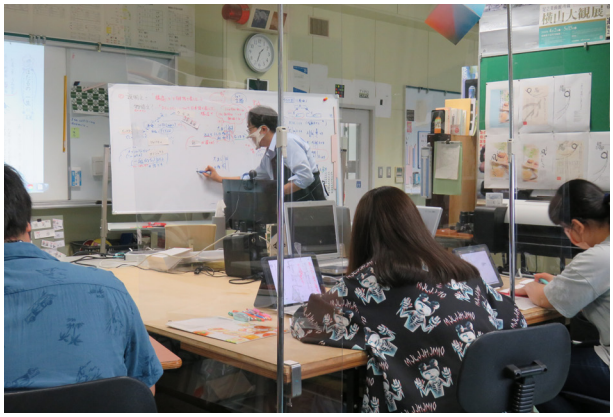
という形で明示的に表現することが重要と考えます。

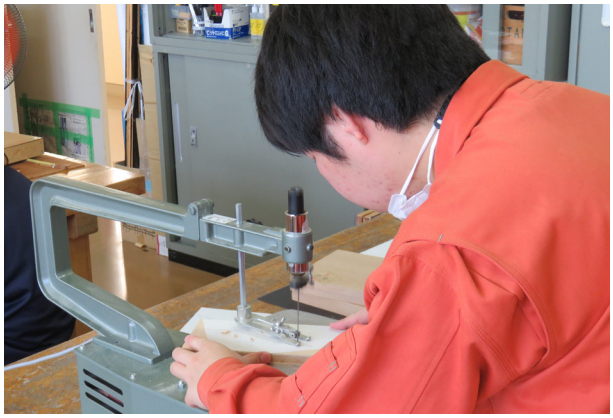
情報デザイン科の教育課程は、専門教科と一般教科に分かれていますが、それぞれが独立して、全く別なものとして学んでいるわけではありません。「言語と思考」、「言語とイメージ」という本質的な問題と向き合うには、単に手を動かし、「作る」ことだけなく、そこに言語と意味が組み込まれる必要があります。デザインは、法則性を様式に視覚化したものとも換言できますが、このことを理解するためには、言語の文法事項や数理的な物事の考え方が不可欠なものになりますし、教科横断的な視点が大切になります。そういう意味では、複合領域としてのデザインは、様々なカテゴリーの要素を整理し、まとめていく学問であるともいえます。

言語を言語として取り出すのではなく、言語の形式に係る内容を教科の中に組み込み、意味内容と文法事項とを一体的に学ぶことに本学科の良さがあるものと思います。

学生の皆様には、その上で自分の有り様をしっかりと理解していただきたいです。時には、未熟であれば未熟であると自覚することも、社会に出る上で大切な学習になると思います。

IDDN





Contents

2-3
特集
改めて「デザインとは何か」
今回は、「デザインとは何か」について、改めて考えてみます。情報デザイン科では、グラフィックデザインや DTP、Web ページ制作以外にも、様々な授業が行われています。領域に違いはあれど、デザインの核心の部分それぞれに共通の属性はありますし、そこを掴めるかどうかは、理解の深まりに大きく影響するものと考えます。日常の授業の様子を紹介しつつ、少し考察してみたいと思います。

Welcome to Information Design Department!!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」をお読みいただきありがとうございます。

ここ最近、北海道は、日に日に寒くなってきています。少々、早いですけども、冬の気配が近づいてきた、と言っても過言ではないかも知れません。

今回はデザインとは何かと紹介させていただきました。難しいテーマではありますが、価値ある学びのためには、時折、思い出しておきたいテーマではあります。

これからも情報デザイン科では、時代の変化に晒されつつ、その変化に対応するべく、授業内容を吟味し、指導方法の改善に目指していきます。

今後も、学生一人一人の能力向上のため、スタッフ一同誠心誠意指導に励んで参ります。

専攻科情報デザイン科の特徴

- 高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。（いわゆる「準ずる教育」の教育課程です）
- 授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト(注3)で、対費用効果の高い学びができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象(注4)となっており、支援制度等も充実しています。
- DTP や Web に係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。（例えば、Web であれば、HTML5 と CSS3 を使い、セマンテックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトや center タグは使いません！）
- デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」(注5)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- 学生のこれまでの学びの環境や積み重ね（「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等）に合わせた教育方法を準備します。
- 筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- 修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い(注6)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「（社会にとって、自分にとって）やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に進路選択できるようにしていきます。

ファックス：0134-62-2663
電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp
電　　話：0134-62-2624

※入試前ま で教育相談等に対応できます。
一人一人に合った指導方法を準備するために、できるだけ入試前に教育相談にお越しになることをおすすめいたします。

情報デザイン科**学科だより**
Information Design Department
IDD**Newsletter**
September2022 9

IDD**Newsletter**　　September 2022

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム
発行／北海道高等聾学校
〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1
www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。